



秋岡幸助くん、ご両親と初参式 (4月21日撮影)

# 慧 光

金光寺寺報  
第191号  
発行所 金光寺  
宮崎県西臼杵郡  
五ヶ瀬町大字鞍岡  
5927番地  
0982  
83-2338

## 今月のことば

だいしんじん ぶっしょう ぶっしょう によらい  
**大信心は仏性なり 仏性すなわち如来なり**

今月のことばは、親鸞聖人の『浄土和讃』の中、「諸経讃」と呼ばれる一首です。さまざまな経典の言葉を通して阿弥陀さまと浄土の功德を讃嘆するもので、この一節では信心について示されています。

はじめに「大信心は仏性なり(大いなる信心は仏性である)」とあります。信心とは私が信じるのであって、私の心のことをいうのだとすると、そこに大の字がついて大いなる信心と表現されるのはおかしいのではないのでしょうか。親鸞聖人が、自分の心をそのように立派なものとお示しになるとは、考えにくいように思います。

親鸞聖人は、私の心、すなわち凡夫のはからいによる思いがいかたよりにならないものであるかを、明らかにしてくださいました。この私が信じるとか、信じないとかいった場合、い

から言葉を尽くして信じているといっても、あるいは確固たる信念で信じ続けるなどといっても、自分の考えで信じている以上、都合が悪くなると信じなくなってしまう。

親鸞聖人がお示しになった信心とは、他力の信心です。阿弥陀さまから与えられる、たまわりたる信心のことです。阿弥陀さまから回向されるので大信心(大いなる信心)といえるのであり、金剛心や一心ともあらわされるのです。阿弥陀さまは、たよりにならない私の心を自分で何とかせよとおっしゃるのではありません。私たち衆生が煩惱を身にそなえた凡夫であることをはじめから知っておられて、救わずにおかないと大いなる慈悲の心で本願をおこされたのでした。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

## 仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

5月	14日(日)	終日	終日
6月	22日(月)	終日	終日
6月	1日(木)	午後	2日(金) 終日
6月	24日(土)	終日	終日
6月	25日(日)	終日	終日
8月	5日(土)	終日	終日
9月	14日(木)	終日	終日
9月	27日(水)	午後	午後
10月	21日(土)	午後	22日(日) 終日

4月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

2017年 4月20日寂 満37歳  
渡瀬 中塚 祐子 様

ホームページ開いています。  
URL <http://konkhoji.jp/>  
5月8日現在 アクセス数 79,042人

大塚製菓や大塚食品など大塚グループの創業者が造られた徳島県鳴門市にある大塚国際美術館に行くことができました。日本国内でリピーター率ナンバーワン美術館だそう、規模・展示品の数など素晴らしいものでした。ただ、展示品は全て陶板による複製品で写真も撮れません、作品に直触れることもできず、そういう意味では本物にあるオーラを感じることはありませんでした。作品を見ている中で、館内にあるレストランで「最後の晩餐」と銘打った洋食を注文。他のメニューはパンがご飯が選択できるのですが、注文した食べ物はパンだけ。ご飯に替えて頼んだのですが、ダメとの返答。食後、ダビンの最後の晩餐を見、その説明書きに「パンを私の体と思い、ワインを私の血と思つて食事をしてとのキリストの言葉を聞きながら晩餐を食した」とありました。パンをご飯に替えることができな理由がわかり納得したと同時にとても恥ずかしくなりました。(住職 松井卓郎)

## 住職ひとりごと

## 仏教用語豆辞典

### 貧者の一灯

街はお中元セールの中です。そこで今回は「阿闍世王受決経」に出てくる「貧者の一灯」の物語を一席。王舎城の阿闍世王は、お釈迦さまを招待して手厚く供養した

が、今度は灯をささげたいと、百石の麻の油をととのえ、これを車に乗せて霊鷲山のお釈迦さまのもとへ贈った。王舎城の町の片隅に、一人の貧しい老女が住んでいた。平日頃、お釈迦さまに供養をささげたいと願っていたが、孤独貧困の実ではどうすることもできなかった。この老女が道ばたで、王が贈る麻油の車に出会い、自分も一灯を献じたいと、道行く人々にたのんで、わずかばかりのお金を得た。そのお金を手に油屋へ行くと、

主人が感激して、二合分の代金で五合の油を売ってくれた。老女は喜んで、その一灯をお釈迦さまに捧げたのである。翌朝、王の万灯はすっかり消えていたが、老女のささげた一灯だけは、いつまでも燃え続けていたという……。物より心を大切にしてくださいね。

(本願寺出版社発行 辻本敬順著  
「仏教用語豆辞典」一〇〇 PART 1 から)

# 葬儀と和讃

二月から葬儀関連の仏事でつとめるご和讃について掲載しています。今月は還骨勤行でつとめるご和讃のお示しを皆さんとともに味わいたいと思います。

## 還骨勤行

### (原文)

観音勢至もろともに  
慈光世界を照曜し  
有縁を度してしばらくも  
休息あることなかりけり

### (現代語)

観音菩薩と勢至菩薩は、ともに慈しみの光で迷いの世界を明るく照らし、縁あるものを救い取って、少しの間も休むことがない

### (原文)

安楽浄土にいたるひと  
五濁悪世にかへりては  
釋迦牟尼佛のごとくにて

利益衆生はきはもなし

### (現代語)

阿彌陀仏の浄土に往生した人は、さまざまな濁りと悪に満ちた世に還り来て、釈尊と同じようにどこまでもすべてのものを救うのである。

(和讃二首の原文・現代語は、紙面の都合上字体を小さくしました)

身近な方がお亡くなりになり、臨終勤行をつとめ、お通夜をつとめ、葬儀をつとめてご遺体を荼毘に付して、火葬が終わると、身近な方のご遺骨は瀬戸物の骨壺に納まり、ご自宅にかえります。

そこにあり  
かしこにありしなが姿  
寂しや瀬戸の壺におさまる  
元気な時はそこ・かしこ

で見ることのできたあなたのお姿ですが、一たび荼毘に付されると悲しいことに瀬戸物の骨壺に納まってしまします。

先人の作られたお詩です。葬儀までは身近な方のお体が存在していました、そのままにしてはおけないので火葬をすると小さな骨壺に納まってしまい、寂しさ・悲しさが募りますね。

そのご遺骨がご自宅にかえられた時につとめる法要を還骨勤行といいます。

その時にも和讃を二首添えます。今回の和讃は、「浄土和讃」「讃阿彌陀仏偈」の中にあるものです。

二首目の和讃をつとめながら、娑婆の縁尽き、お浄土に生まれられた故人はもうすでに縁ある世界に還り来て、休むことなくはたらい下さる還相の菩薩さまになっていらつしやるのだなと思います。この和讃をいただいて、そのことにお気づきいただいでほしい

いなとも思っています。故人を偲び、故人に導かれて手を合わせるなかで、この世のいのち終えて浄土に生まれ、仏になる人生であることに気付かされるのが、臨終勤行から還骨勤行までのご縁なのです。

親鸞聖人は、阿彌陀さまの本願によつて念仏申す身と育てられ、命終えてお浄土へ生まれ往く教えを「浄土真宗」として明らかにしてくださいました。

蓮如上人は、阿彌陀さまに撰め取られて歩むお浄土への人生を、「後生の「大事」としてお示しく下さいました。これから先の人生には、いろいろな出来事がおこることでしょう。そのとき、後生の一大事を心にかけて念仏申す人生、撰め取って捨てないまことの願いに遭遇していたことが、きつと私を支えてくれるのだと思います。ともに、お念仏のなか、お浄土への道を精いっぱい歩ませていただきます。 (了)

# 法語の世界

## 原文

前々住上人(蓮如)御病中に、兼誓・兼縁御前に伺候して、ある時尋ねまうされ候ふ。冥加といふことはなにとしたることにて候ふと申せば、仰せられ候ふ。冥加に叶ふといふは、弥陀をたのむことなるよし仰せられ候ふ云々。

(蓮如上人御一代記聞書 一二六)

## 現代語訳

蓮如上人がご病床にあつたとき、ご息子の蓮淳さま、蓮悟さまが上人のもとへおうかがいし、「目に見えない仏のおはたらきになつたというのは、どのようなことでしょうか」とお尋ねすると、上人は、「それは、弥陀を信じておまかせするということである」と仰せになりました。

## 法事日時について

法事の日時について、ご連絡をいただいた順に日程を決めています。希望の日時がありましたら、早目にご連絡ください。

なお、年回忌法要はお命日を過ぎてつとめても大丈夫です。

## 初盆会の日程について

毎年、初盆会にご連絡を頂いた順に日程を決めています。本年初盆をお迎えするお宅で、時間を決めて法要後のお齋をお考えのところは早目にご連絡ください。

なお、下記は日程が決まっています。

記

8月13日 10時、11時、12時、13時、14時  
8月14日 11時、12時、13時、15時

